

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

---

## 何のために学ぶのか ～頑張りは必ず実を結びます～

---

通信教育部社会福祉学科卒業生

熊倉さやか

---

### はじめに

---

私は、2011年4月に通信教育部に入学し、2年間で精神保健福祉士国家資格取得に向けた勉強をして卒業しました。しかし、精神保健福祉援助実習で「社会福祉士の勉強もしてみたらどうか」と助言をいただき、再入学をし、2015年3月に2度目の卒業をしました。

今回は、福祉の知識がゼロのまま入学し、社会人と大学生を両立しながら国家資格を取得し、転職に至るまでのお話をさせていただきたいと思います。

### 3カ所実習で鍛えられた自分

---

精神保健福祉援助実習は、精神科病院2か所24日間、社会福祉援助実習は児童養護施設24日間で行いました。実習中は、数えればきりがなほど様々な体験をさせていただきました。その中でも、特に印象深いエピソードを2つあげたいと思います。

精神保健福祉援助実習2か所の実習で、院内断酒会に参加させていただいた次の日、実習担当者から「アルコール依存症の人のことが分かっていない」と指摘を受けました。断酒会には10名程のメンバーが参加し、議題は「退院後のアルコールとの付き合い方について」でした。8割のメンバーが「止めたいけど、退院したら飲んでしまう」と発言しました。その日、私は実習記録に「治療法は断酒以外にない。メンバーは病識がないと感じた」と書きました。この日の記録を読んで、「アルコール依存症は否

認の病気であり、依存症の特徴をとらえていないと、支援の難しい病です。」という話をされました。アルコール依存症について学習してきたはずが、全く分かっていなかったことに気づかされました。「やってしまった」と心で思いながら、勉強不足であったことを担当者に詫びると、「こうやって、新しいことを覚えていくんだよ」と仰っていただき、失敗を怖れずに取り組んでいこうという気持ちになることができました。

社会福祉援助実習でお世話になった児童養護施設は、実習の1年半前から学習・余暇支援ボランティアとして毎週関わってきた施設でした。ボランティアの時は小学生にしか関わっていなかったのですが、実習中は2歳～18歳までの子どもたちとも関わりました。ボランティアを始めた頃、私は被虐待児の行動特性に悩まされている時期がありました。昨日までは仲良くしていたのに、翌日には無視、暴言等があり、「これはどういうことなんだろう」と頭を悩ませていました。実習開始頃に、担当者に話しをしてみると、「子どもたちは大好きな親に見捨てられたと思っている子どもも少なくない。だから、子どもたちが重要な他者になりうる人には、嫌われたくない、見捨てられたくないという気持ちがどこかにある、きっとその重要な他者に位置付けられているのかもしれないね。」単に子どもたちの気まぐれ？性格のせい？私が何かしたから？と思っていたモヤモヤがスッとなくなったのと同時に、その後は子どもたちとの関係も良好になったような気がします。被虐待児でなくても、子どもは大人の気持ちや態度に敏感です。きっと被虐待児は、もっともっと大人の気持ちを読むようになっていたのだと思います。

## 悔しさをバネに臨んだ国家試験

初めて受験した国家試験は、精神保健福祉士国家試験でしたが、とても悔しい結果でした。2か所目の実習が終わった10月後半から本格的に試験

勉強を始め、年末年始も返上して、1日10時間勉強することもありました。過去問を中心に、問題に出てきた語句をノートにまとめ、説明を加えながらオリジナルノートを作成しました。また、模擬試験にも挑戦し、自分なりに達成感のある勉強をしたと思っていました。試験1日目、午後から専門科目の試験があり、順調に解答することができました。2日目、午前中に共通科目の試験があり、苦手分野を先に解答しながら、1問1問に集中しました。あと2分野残っていたところで時計を確認すると、残り15分しかありませんでした。見直しもしないといけないのに…と気持ちは焦り、最後の分野は一気に問題を解いてしまう結果となりました。試験後自己採点をしてみると、最後の分野が0点。合格点を超えていたにも関わらず、不合格となりました。この悔しさがバネとなり、2度目の挑戦は無事に合格。そして、今年3月の社会福祉士国家試験も無事に合格することが出来ました。

## おわりに

---

私は元々福祉とは無縁の仕事をしていました。「このままでいいのだろうか、何か私にしかできない仕事はないだろうか」と模索していた時期、病院で働く精神保健福祉士に出会いました。「これだ!!」と思い、今までの仕事を辞め、非常勤の特別支援教育支援員の仕事を見つけ、初めて教育現場に飛び込み、同時に通信教育部での勉強もスタートさせました。2011年は震災の年であり、多くの人が0からスタートしなければいけないという中、私自身も0からのスタートを始めた一人でした。

通信教育部での4年間は緊張と不安の日々も多かったですが、共に頑張れる学友にも恵まれ、人との縁の大切さを実感しました。また、「やればできる、必ずどこかで報われる」ということも感じてきました。入学する前から、卒業後は、精神科病院の精神保健福祉士になりたいと決めていま

した。社会福祉士の国家試験が終わって1か月後、私は1か所目の実習先であった精神科病院の正社員に内定をいただくことができました。内定が決まった時は、4年間の頑張りが認められたような気がしてとても嬉しかったです。現在は医療福祉相談室の配属になり、またゼロからのスタートを始めています。

人それぞれ、資格を取得したい理由があると思います。何のために自分は勉強するのか、資格を取得したらどのように生かしていきたいのかが明確であれば、通信教育部での勉強はさらに実り多いものとなると思います。在学生のみなさん、それぞれの夢に向かって頑張ってください。

## スクーリング・アンケートより(1)

アンケートよりスクーリング講義の感想を抜粋いたしました。

### ●公的扶助論

- ・ホームレスの自立支援プログラムについて考えさせられました。仕事に就き、住む家が与えられるということは、世間一般からみれば「良かった」とされがちですが、簡単にそうとは言えないということが分かりました。人は人とコミュニケーションをとりながら、心を通い合わせるのが大事なのだと改めて思いました。
- ・生活保護は「権利」だということ。日ごろ業務で生活保護を受けたほうがいいと思う対象者がいたとしても、実際にその相手に伝えるとき、「それはまだ早い」「嫌だ」と答えられる方が多い。そのような気持ちを受け止めた上で、より良い、現実的な方法をともに模索していくことが必要なのだと感じた。

### ●社会福祉援助技術総論

- ・講義中、学生からの質問にも応じてもらえ、ありがたかったです。自分は今デイサービスに勤務していますが、勤務先でのソーシャルワーカーの仕事の現実に疑問を感じていました。先生の話聞いて、ソーシャルワーカーのフィールドの広さ、できることの多さを知り、俄然燃えてきました。
- ・これまで公的扶助の現業員などを経験し、ソーシャルワークについても独学で勉強しましたが、やはり体系的に学習すると、勉強が足りなかったことがよく分かりました。大学への入学を機会にこれからは、本物のソーシャルワーカーを目指して、学習を深めたいと思います。
- ・社会福祉は高齢者に対することがメインだと考えていましたが、ソーシャルワークの範囲の広さに驚きました。初めてのスクーリングで普段は福祉とは離れた仕事をしているので、先生のお話がとても新鮮に感じました。

### ●高齢者福祉論

- ・改正される制度内容と、実情とががみ合っていない。地方自治体ができることにも限界があり、国が進める方向に動いていない。現状をどう変えていくべきか？多くのことを考えさせられました。
- ・介護の現場で常に「変革者」として運動されているひとが存在することに興味を抱きました。自分もそういう人になりたいと思います。先生の「高齢者は、私です」という姿勢にも共感しました。私も同じ気持ちで働いています。
- ・福祉には金がない、ということを講義中繰り返し聞き、これからいかに大変になっていくか、実感を伴って知ることができました。とても楽しい授業で、重みと価値と、笑いがある時間でした。もっと先生のスクーリングを受けてみたいです。